

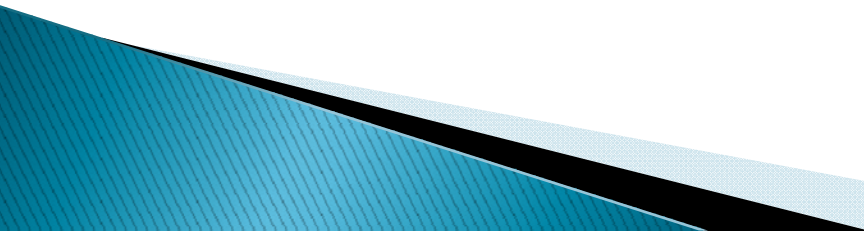
# 性感染症対策を考える サーベイランス運用ガイドライン(案)

平成22年1月22日

山岸 拓也(国立感染症研究所情報センター)

尾本 由美子(東京都台東区 台東保健所)

# 性感染症対策は、取り組みづらい？

- 5類である(5類でしかない)
  - 「予防啓発しか やったことはありません」
  - 流行状況が把握しにくい
  - 医師の協力が得られにくい？
  - プライバシーの侵害？個人の問題？
  - HIV対策との分断
- 

# 性感染症対策を難しくしている要因

## (1) 5類であること

しかし、

- 多くの性感染症の中で、5類(もしくは4類)に位置づけられている【5類であることの重要性】
- 特定感染症予防指針の対象疾患である
- HIV/AIDSも5類感染症
- 感染症法第15条による積極的疫学調査の対象

# 性感染症対策を難しくしている要因

## (2)実績や経験がない

その理由は、

- ✓ 疾患の種類が多く、検査方法も多様
- ✓ 研修機会の不足
- ✓ 保健指導の資料の欠如

(HIV/AIDS対策と比較すると、状況が理解しやすい。)

## 性感染症対策を難しくしている要因

### (3) 流行状況が把握しにくい

つまり、

サーベイランスデータの読み方がわからない。

- この数字は「流行している」と読むのか？
  - 地域比較はできるのか？
  - 対策の基礎データとして利用したいが・・・
- 
- サーベイランスデータの読み方の研修を
  - 現行のサーベイランス体制の限界を知ろう

## 性感染症対策を難しくしている要因

### (4) 医師の協力が得られにくい

では、

性感染症対策における医師の役割を確認しよう

#### 【感染症法上の責務】

- 第5条の1(抜粋)
  - ・国、地方自治体が行う予防対策に協力すること
  - ・患者がおかれている状況を認識すること
  - ・良質かつ適切な医療を提供すること
  - ・患者への適切な説明と了解を得る努力をすること
- 第12条の2 全数把握疾患(梅毒)の届出義務
- 第14条の1 定点把握疾患の届出義務

# 性感染症対策における医師の役割

## 感染症対策の 基本

- ・ 感染症対策においては、「感染性患者の確実な治療が最大の予防」。つまり、「早期発見と確実な治療」(\*)。
- ・ これは性感染症対策においても、同様。

## STI対策の 基本

- ・ 性感染症を診療する医師は、不可避免的に性感染症対策上最重要な公衆衛生上の役割を担う(\*)。 (※)伊藤邦彦「結核診療プラクティカルガイドブック」の記述を改変

## 医師の責務

- ・ 感染症法第5条は、これを明文化したもの、と理解される。



# 性感染症対策を難しくしている要因

## (5) 個人の問題か？

- ✓ いま目の前にいる患者は、感染連鎖の中のひとり。その患者が治癒するだけでいいのか？
- ✓ すべての人が感染する可能性がある。患者は「特殊な個人」ではない。



- ✓ 個人に対する細やかな配慮が必要だが、個人的な問題ではない（公衆衛生上の問題）



# 性感染症対策を難しくしている要因

## (5) 個人の問題か？

- ▶ 母子感染（先天梅毒など）
- ▶ 患者本人が不妊症となる可能性  
（患者本人のがん化の影響含む）
- ▶ 感染を受けた人が不妊症となる可能性  
（感染を受けた人のがん化の影響含む）



感染連鎖の中で  
これが繰り返される。

\* 少子化対策としての重要性も増している。

# 性感染症対策を難しくしている要因

## (6) HIV/AIDS対策との分断

- ▶ 厚生労働省疾病対策課
- ▶ エイズ予防法
- ▶ 全数届出
- ▶ 豊富な予算
- ▶ 豊富な研修メニュー
- ▶ 豊富な学校教育
- ▶ 豊富な啓発資材
- ▶ 豊富な民間団体

HIV/AIDS対策

厚生労働省結核感染症課  
性病予防法  
梅毒のみ全数届出  
豊富でない予算  
豊富でない研修メニュー  
豊富でない学校教育  
豊富でない啓発資材  
豊富でない民間団体

性感染症対策

# 時代に適応した性感染症対策とは

(特定感染症予防指針に基づいて)

- 発生動向調査を重視
- 発生動向の精度向上(全数調査の取り組み等)
- 臨床医との連携(確実な届出、他のSTIのチェック、パートナー健診等)
- 母子保健対策との連携:すこやか親子21、少子化対策
- がん対策との連携(子宮頸がん、肝がん)
- HIV/AIDS対策との連動:保健指導、予防啓発、予防教育等あらゆる場面で合体させよう
- 対象疾患を広げて対応しよう(例:アメーバ赤痢、B型肝炎)

# 拡大STI対策の提案(赤字の疾患を追加)

日本感染症学会作成「性感染症 診断・治療 ガイドライン」の目次	感染症法上の 分類	感染症情報センターの疾患別情報で STDとして分類されたもの
梅毒	5類全数	○
淋菌感染症	5類定点	○
性器クラミジア感染症	5類定点	○
性器ヘルペス	5類定点	○
尖圭コンジローマ	5類定点	○
性器伝染性軟属腫	対象外	
膺トリコモナス症	対象外	
細菌性膺症	対象外	
ケジラミ症	対象外	
非クラミジア非淋菌性尿道炎	対象外	
軟性下疳	対象外	
HIV感染症/エイズ	5類全数	○
<b>A型肝炎</b>	4類全数	
<b>B型肝炎</b>	5類全数	○
<b>C型肝炎</b>	5類全数	
<b>赤痢アメーバ症</b>	5類全数	○
		性の健康医学財団「性感染症Q&A 2008」より改変

# これからのSTI対策のイメージ

